

## 第2節 (実践2) 「開かれた学校づくり」と 人権の学び合い～A高校の実践～

### 1 人権問題を全学級で

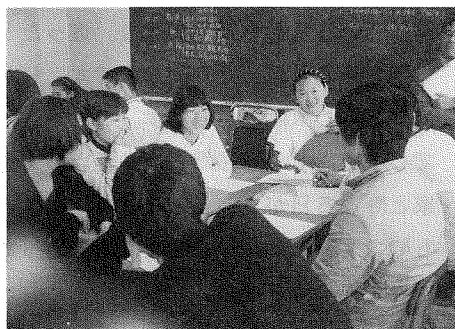
ある通学区の同和教育中・高・特連絡協議会がA高等学校を会場に開かれました。この通学区では、中学校と高校が年度ごと交互に授業を公開しており、今年度はA高校が、全学級のLHRの時間を公開しました。1、2年は各学級のLHRで、3年は合同学年集会の形で、学歴差別、女性差別、人種差別、障害のある人への差別、在日外国人の権利、同和問題、いじめ、エイズなど、さまざまな人権問題について学び合いました。

### 2 外国籍の人たちとの語り合いから

2年のあるクラスでは、A地方に在住する外国人6カ国7名の方が社会人講師として訪れました。まずそれぞれの国のことばで挨拶をしました。

仲介役をした日本人のYさんが『外国人問題』というタイトルをいただいたけれど、それは日本人が外国の人を見てとらえたマイナスイメージです。むしろ日本人問題ではないでしょうか。異なるものが共存してお互いに育っていく社会を目指して、『だれでも、いつでも、できることから』始めましょう』と問題提起しました。

その後、7つの小グループに別れ、外国籍の方を囲んで話し合いました。外国籍の方も生徒たちも笑顔で語り合っていました。講師として参加した方々も「話してとてもうれしかった」と口々に語っていました。語り合うことを通して生徒たちは、普段外国籍の方に出会ったとき、ともすると違和感を感じてしまっていた自分たちの姿を振り返ることができました。



笑顔の語り合い

この学習をもとに、生徒たちは英作文の学習として感想をまとめました。

資料〈参加してくれた外国人社会人講師へのお礼の手紙より〉

英語の授業でいくつか題を与えて作文を課しました。不十分なものですが、生徒の関心がお分かりいただけるかと思います。下記のK、Hさんの作文は10月のホームルームでの経験がもとになっております。ありがとうございました。

2年G組 学級担任

Recently I have seen many foreigners in A-city. They are Asian, European and so on. When I see them, I think there are many different people in the world and many Japanese

cities including A-city are being internationalized. The other day I had a chance to talk with a foreigner in A-city. She came from Thailand. She spoke to us about many things like the reason she came to Japan, and, her livelihood in Japan and so on. It was a good experience for us to hear what she said. When I heard her talk, I thought we were different but also the same. Surely we are different, because we have lived in different places and we have different cultures and habits. But we are the same, because we are human living on the earth. In the future the people who are foreigners in Japan and the Japanese who go to a foreign country will increase in number. Then we must know other's cultures and habits. I think surely that the day will come when we can call the world one nation. The advanced nations including Japan must lead the world. But it must not be a dictatorial lead. Anyway we should know each other and keep world peace.

K. H

(日本語訳)

最近A市でもたくさんの外国人を見ます。アジア、ヨーロッパその他各地から来ています。彼らに会うと、世界には様々な人がおり、A市も含め、日本の町も国際的になりつつあると思います。先日A市に住んでいる外国人と話す機会がありました。タイの出身の方です。彼女は来日した理由、日本での生活等、たくさんのことを話してくれました。彼女の話聞いていてとても良い経験になりました。その中で、彼女と私たちの違っていること、と同時に同じであることも知りました。違ったところで生き、違った文化や習慣を持っている以上違っていることは当たり前なのです。しかし同じでもあります。なぜなら、私たちはこの地球に住む同じ人間だからです。これから、日本に住む外国人、外国へ行く日本人が益々増えるでしょう。その時私たちはお互いの文化と習慣を知らなければなりません。世界を一つの国家と呼べる日がきっと来ると思います。日本を含め先進国は指導的役割を果たしていきたいものです。しかし独裁的なものであってはなりません。とにかくお互いを良く知り、平和な世界を作るべきです。

K. H.

翌年度は英、米でないアジアなどの英語圏の在日外国人の方たちをお願いして、英語の学習を進めるという取り組みも行われました。語り合うことを通して、理解が深められています。

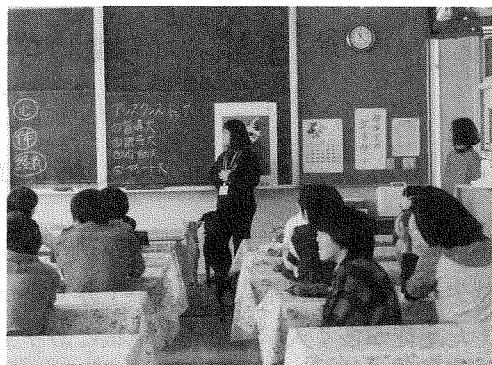
問題点としては、これらの講師の人たちがそれぞれ家庭や仕事を持っているため、家族や上司の理解を得て参加していただいていることです。相手の立場を考えながらの交流になっています。

### 3 支える人の努力に学ぶ

1年のあるクラスでは、聴導犬協会のAさんの話を聞いて学びました。聴覚障害のある人のために働くアシスタントドックの様子をVTRや目の当りに見て、「オー」という感動の音が教室に起こりました。障害のある人を支える努力や自分としてできることを感性

を通して考えさせられた姿が見られました。

2年のあるクラスでは、事務職員で地域の手話サークル会長をしているTさんを講師として学習しました。聴覚障害者の擬似体験をもとに考え、バリアフリーやノーマライゼーションの考えについても話を聞き、手話も教えてもらいました。自ら取り組んでいるTさんの姿から学びました。



聴導犬と一緒に

#### 4 学年集会で差別について考え合う

3年生は全クラスが体育館に集まり、進路や学歴差別について話し合いました。集会に先立ち担任の先生から「同和」という言葉が生まれた意味や、人は生まれながらにしてみな平等であることの考えからさまざまな運動が起こってきたことの話がありました。続いて各クラスの代表が能力差別、結婚差別などの意見を発表しました。

#### 5 学校全体で取り組む

A高校では、前年度は全校生徒、職員で地元のSさんから「大江磯吉の生涯に学ぶ」の講演を聞き、被差別部落に生まれ、厳しい差別と闘いながら教育の道で力強く生きた地域の先輩、大江磯吉の生き方に学びました。この中で、自分たちの身の回りや社会にある差別について考えていこうという課題が生まれました。

6月、11月を国際理解・人権教育の啓発月間として進め、全学級学年の授業公開を学校全体で受けとめ、それぞれの学級が人権教育に取り組みました。上に紹介したほか、例えば1年のあるクラスでは「人種問題について」全員が短作文し、それを新たな教材にして話し合われました。また2年のあるクラスでは「女性差別」について、小学校から今までに自分が使ってきた国語の教科書に載っている作者の男女比を調べ、資料をもとに話し合いました。こうして、それぞれの学級で問題が焦点化されてきています。

このように、身の回りで人権について考えている人、取り組んでいる人たちを講師として積極的に学校へ招き、自分の問題として討論する姿から、これが日常的継続的な取り組みにつながるのだと感じられました。参観した先生たちからは、「自分も初めて体験した問題もあり勉強した」「今ある状況の中、本音を伝え合っている」などの感想が出されました。

全学級の公開から、教師と生徒たちが本気で取り組んでいる熱気を感じ、安心して自由に語り合う中で、一人一人が互いのよさに感動し、生徒も教師もまた自信を深めていけるのだと思いました。

〔「同和教育だより」第56号〕(平成11年3月1日、県教委発行P. 6. 参照)